

パラグアイ共和国「イタプア県、カアサパ県におけるテリトリアル・アプローチ実施体制強化のための農村開発プロジェクト」生活改善アプローチの進捗報告（2）

本年3月に技術員達の支援のもと、生活改善の考え方を知り、外部支援に頼らず、自分でできることを考え始めた3市4集落の住民たち。毎月一度、県庁計画部長、農牧省普及技術員、社会事業庁市コーディネーター、同庁普及員らがチームとなり、モニタリングとして、住民グループの生活改善活動に寄り添い、必要に応じ助言や次のステップのサポートをしています。

活動写真	補足
	<p>2016.07.20 タバイ市トランソ集落 モニタリングの様子。</p> <p>当家族は庭の清掃を生活改善活動として開始。有機肥料作成用の穴と、ゴミ捨て用の穴(写真真ん中)を掘り常に庭清掃を心掛けるようになりました。</p>
	<p>2016.07.20 トランソ集落 トロチェ氏宅</p> <p>「種をそのまま植えると、発芽率が低いので屋根付き苗床を手作りした。雨が多い時期に苗がむき出しになり流れていったので、雨を防ぐためナイロン屋根を付けた。」生活改善活動として、一番興味のある生産関連での工夫を実践した様子。</p>
	<p>2016.07.20 トランソ集落 アコスタ氏宅</p> <p>生活改善として、家族の健康促進と支出減少を目的に家庭菜園を計画。2か月前に、庭の一部を菜園とし、現在では豊かに野菜が実っています。ただ、一株一株の隙間なく栽培されており、作業用の畝間の通路もないため、農牧省普及技術員に栽培方法をいくつか指摘されていました。専業農家ではなく従業員で、自宅でキャッ</p>

	<p>サバ栽培はしているものの、野菜栽培は初めてのことです。</p>
	<p>上記アコスタ氏宅には、4ロガスコンロ、オーブンレンジ、既成かまど(写真中央奥)もあるものの、日頃は床にくべるスタイルで調理しています。「風が入ると炎が強すぎるから」とドアも窓も締め切って煙が充満する中でフライを揚げるので、息が苦しくなるほどです。</p>
	<p>2016.07.28 ヘネラル・モリニゴ市技術員チーム能力強化研修 「生活改善アプローチ vs 旧来型アプローチ」をテーマに、それぞれの特徴を書き出します。「生活改善アプローチは住民自身が自分の力・リソースを使って課題解決に取り組む。」「旧来型アプローチは行政側が計画を立て活動を押し付ける」と意見が出されました。どのような支援体制・手法なら集落活動に持続性があるのかをチームで考える素材としました。</p>
	<p>2016.07.28 ヘネラル・モリニゴ市ピンドジュ集落 生活改善の考え方を、エルサルバドルの実践事例ビデオを導入として復習します。「自宅で作った野菜を食べると出費なくて良い」「かまど改善が印象的。煙がなくなって良さそう。」これまでの活動に関しては「野菜栽培のわからないことを教えてもらえるので農牧省普及技術員に来てもらえて嬉しい」と住民。</p>



2016.07.28

ヘネラル・モリニゴ市ピンドジュ集落

自分達が実践してきた生活改善活動の振り返り(参加型評価)。

「生活改善としてトイレ改善を実施した。トイレの壁用の木を集め揃えたので、進捗にとっても満足している。次は建てるだけ。」「台所の屋根をつけて、あと少しで新しくなるから嬉しい」それぞれの進捗に対し住民自身が自己分析し、次の取り組みを検討しました。外部支援に依存せず、自分自身で活動し始めたことに、自信を持ち始めた様子です。



2016.07.28

ブエナ・ビスタ市開発委員会内 生活改善部会
関係者協議

同市はパイロットプロジェクト対象市ではありませんが、市民側から強い要望があり、日本の生活改善の経験や住民の能力強化の手法を簡単に共有のうえ、市民と協議しました。

全員が積極的に発言し市を良くしたいという各自の意識の高さが感じられました。「生活改善を住民に促進したいが、どうやって、どこから取り掛かればよいかわからない」との声に、現状分析をするというのも計画の一つであること、また具体的な大きい活動ではなく、小さい変化の醸成を目標として良い、等助言しました。

文責：和田彩矢子（生活改善）